

2023年～2027年

# 住民発！中原地区 小地域福祉活動第一次計画



## あいさつと見守りで 育むまち 中原



# ごあいさつ



## 「あいさつと見守りで育むまち 中原」

### 住民発！中原地区小地域福祉活動計画

#### 第一次計画策定にあたって

中原地区では、今日まで「住民みんなが安心して暮らせる住みよいまちづくり」を目指して、自治会関係者・社会福祉関係者をはじめ多くの地域住民の皆様のご理解・ご協力の下、地域福祉活動に取り組んでまいりました。

平成7年度より開始した「ふれあいネットワーク活動」では、「見守り・助け合い・話し合い」の3つのしくみを基本に据え、高齢者・病弱者・障害者・児童幼児などの生活弱者を主対象にして温かく見守り、時には優しく援助の手を差し伸べ、且つ必要に応じて行政の支援もいただきながら活動してまいりました。

近年では、中原地区におきましても他地区と同様に少子高齢化の急速な進展に関する諸課題や価値観・ライフスタイルの変化に伴う我々の生活環境への様々な課題が提起されてきたことから、今後の社会福祉活動を進めていくためには社会福祉を担う各種団体及びその構成員がもう一度地域の福祉課題を共有し、問題解決に向けて話し合い、協働していくことが不可欠だと考えました。

そこで、今般、中原地区では北九州市の地域福祉計画及び地域福祉活動第六次計画との整合性を保ちながら、小地域での中長期の福祉活動計画を策定することに致しました。そして、策定された計画の実施にあたりましては、中原地区の特徴を逐次反映させつつ、段階的に進めてまいります。

中原地区は、古くは「公害のまち北九州」を克服する原点の一つとなった中原婦人会の地道ながらも不断の輝かしい活動実績や直近では令和4年7月に、コロナ禍の不安が過ぎる最中であるにも拘わらず、中原大山笠が、戸畑祇園大山笠の地元祭典行事を他地区に先駆けて無事に成し遂げた英断等を地域の誇りとしています。後者は、現状取りうるコロナ感染症予防措置を最大限に採用した上で、綿密な山笠運行計画を立案し・実行した結果の成功例だと言えます。

おわりに、この計画の策定にあたりご尽力いただきました本計画策定委員の皆様方並びに、ともに課題を共有し有益なご意見を多数いただきました地域団体の皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年12月

中原地区社会福祉協議会 会長

中原地区小地域福祉活動計画策定委員会 委員長 犬塚 博

# 「 あいさつ と 見守り で 育むまち 中原 」

## 住民発!中原地区小地域福祉活動第一次計画

(2023年～2027年)

### 目 次

ごあいさつ	
第1章 計画策定にあたって	1
1 計画の特性	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 中原地区の現状と取り組み	2
1 中原地区の特徴	
第3章 第一次計画の体系	3
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目（体系図）	
4 重点実施項目	
第4章 計画の推進	8
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第二次計画の策定	
4 小地域福祉活動第一次計画策定にあたり連携や協力をいただいた団体名簿	
5 小地域福祉活動第一次計画推進委員会（策定委員会）名簿	
参考資料	12
策定委員会及び役員会での協議事項	

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画の特性

### (1) 住民発信の行動計画

この計画は、中原地区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

### (2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、中原地区に住む人たちの「安全・安心な生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

### (3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

### (4) 中原地区社協の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにするものです。

## 2 計画の期間

第一次計画は、2023年から2027年までの5ヵ年とします。  
ただし、計画期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

## 3 計画の策定経過

中原地区では、日頃から地域福祉活動に取り組んでいる地域団体や福祉施設、関係行政機関等の皆さまからの幅広い意見を踏まえた住民主体の地域福祉に関する計画を策定するため、中原地区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。

令和4年3月8日に立ち上げた同委員会では、56名の委員が4回に及ぶ会議の中で熱心な協議を重ね、中原地区の将来像を見据えた小地域福祉活動計画を策定しました。



# 第2章 中原地区の現状と取り組み

## 1 中原地区の特徴

### (1) 地域の特徴

中原地区は、境川を境にして小倉北区と隣接しており、JR 鹿児島本線（最寄り駅：九州工大駅前）や国道199号線、都市高速道路、西鉄バス路線3本など交通機関に恵まれた位置にあります。また、中原地区の中央を東西に二分する形で日本製鉄（株）の「くろがね線」が通っています。

昭和初期までは、桜の名所・白浜青松の遠浅海岸の景勝地として知られていました。昭和30年代から40年代の日本産業界の高度成長期には、海外線の埋立て・橋梁・道路・工場等の建設ラッシュで北九州工業地帯の一翼を担って賑わっていました。現在は、往年程の賑わいは見られませんが、閑静な住宅街へと移行しています。

中原地区には、保育園 2施設、小・中学校 各1校、国立九州工業大学、中原市民センター等の学校や施設が存在します。また、中原八幡宮は、氏神様として昔から崇められており春秋の神社神輿による定例巡幸の他、年間を通じて各種の神社行事を執り行っています。

更に毎年7月には、ユネスコ世界文化遺産に登録されている戸畑祇園大山笠の祭典が開催されるのに合わせて中原大山笠が祭典に参加しています。中原地区には、中原大山笠のほかに中原小若山笠（中学生対象）中原子供山笠（小学生・幼児対象）もあり、夏の地元祭典に参加し中原地区の夏に彩りを添えています。

### 《基本項目》

校(地)区	社協名	中原 校(地)区社会福祉協議会		人口	7,608 人		活動範囲	中原西2丁目～3丁目 中原東1丁目～4丁目 土取町12番～14番 境川1丁目～2丁目		
	設立年月	昭和43年7月20日		世帯数	4,206 世帯			小学校	中原小学校	
	ふりがな	いぬづか ひろし			高齢化率	30.4 %		中学校	中原中学校	
	代表者	会長 犬塚 博		地域包括 支援センター		戸畑1				
福祉協力員	人数	男	25	見守り 対象世帯	一人暮らし の高齢者の世帯	一人暮らし	世帯数	473	世帯	
		女	31			対象年齢	70	歳以上		
		計	56			人	高齢者のみ	世帯数		世帯
	平均年齢	男	73			歳	対象年齢		歳以上	
		女	71.9			歳	昼間 高齢者のみ	世帯数		世帯
		計	72.4			歳	対象年齢		歳以上	
ニーズ 対応員	人数	男	25	人	障害のある人のいる世帯	63	世帯			
		女	31	人	一人親で子育て中の世帯	25	世帯			
		計	56	人	その他		世帯			
	福祉協力員との 兼任割合	男	100	%	その他		世帯			
		女	100	%	合計	561	世帯			

(令和4年3月 ふれあいネットワーク活動推進事業計画書より)

# 第3章 第一次計画の体系

## 1 基本理念

### 「あいさつ と 見守り で 育むまち 中原」

中原地区では、子どもから高齢者まで、また、障害のあるなしに関わらず、誰もが住みなれたところで安心して安全に暮らしていけるまちにしたいと願っています。

地域の特性を踏まえ、住民の皆さんの理解と参画を得ながら、地域団体や関係機関との連携のもと「あいさつ と 見守り で 育むまち 中原」を基本理念として、小地域福祉活動第一次計画を推進していきます。

## 2 基本目標

### (1) 基本目標1 「 地域で つながる ふれあいの輪 」

集いの場を活用した見守り体制整備、充実に取り組みます。サロン活動を通して、地域住民の健康づくりとともに見守り活動の充実を図ります。従来の訪問型の見守りに加え、集いの場での見守りも並行し、効率的により多くの方へ目が行き届く見守り体制を整備します。また、多くの方に集いの場へ参加いただけるよう、内容の充実やサロンの新設にも取り組みます。

### (2) 基本目標2 「 合言葉は「お互い様」の関係づくり 」

ふれあいネットワーク活動を基盤として、できる範囲での助け合い活動（話相手やゴミ出し等）を行い、お互い様の意識醸成、地域住民が互いに支えられ支える関係づくりに取り組みむとともに、多くの方に社協活動を知ってもらうため定期的な情報発信に取り組みます。

### (3) 基本目標3 「 地域の宝 こどもをみんなで 育てるまち 」

地域の宝である次世代を担っていく子どもに挨拶運動、登下校の見守り、夜間時の声掛け等を継続的に行い、地域全体で見守ります。

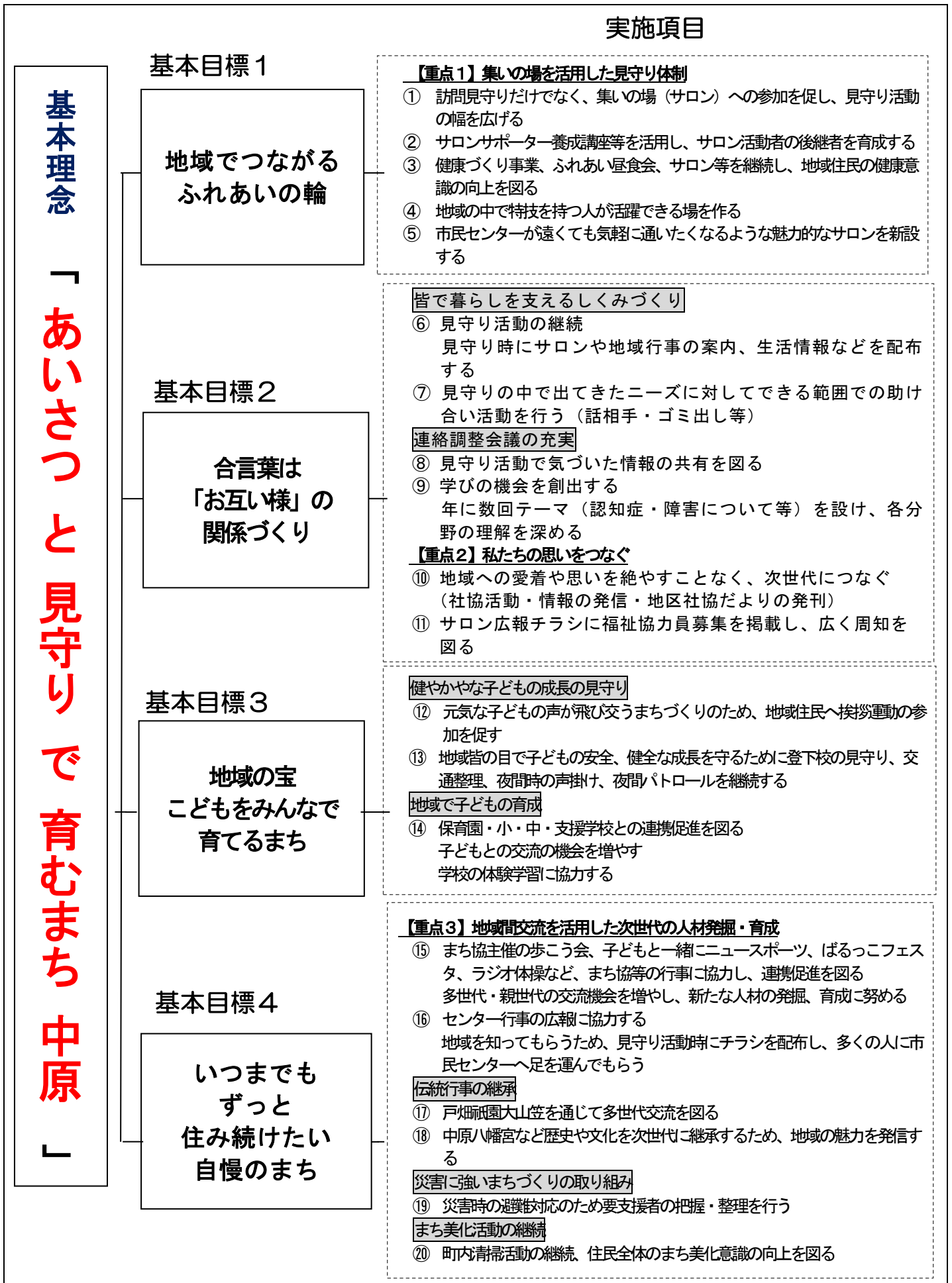
また、保育園・小・中・支援学校とより一層、連携強化を図り、福祉教育の協力を行い、子どもの福祉の心を育みます。

### (4) 基本目標4 「 いつまでもずっと住み続けたい 自慢のまち 」

中原地区社協活動が次世代へつなぐとともに、福祉の心が地域住民に受け継がれていくために、三世代交流や地域イベント、伝統行事の戸畑祇園大山笠、まち美化活動を通して、中原地区社協活動への協力と理解促進を図り、次世代へつなぐ人材発掘、育成を行います。

また災害時に強いまちづくりの取り組みとして要支援者の把握、整理に努めます。

### 3 実施項目（体系図）



## 4 重点実施項目

### 重点実施項目 1 集いの場を活用した見守り体制

#### 選定した理由

今後も高齢化社会は進んでいく。地域高齢者の交流の場、心身健康維持の場として、ますますサロンの必要性が高まる。既存サロンの充実、更なる発展を図るとともに、従来の訪問型の見守りに加え、サロン（集いの場）での見守りも並行し、効率的でより多くの方に目が行き届く多様な見守り活動の体制が必要である。


#### 第一次計画での活動方針







健康づくり事業、ふれあい昼食会、サロン等を継続し、地域住民の介護予防、健康意識向上を図る。多くの人に参加できるように内容を定期的に見直し、充実を図る。また、サロンサポーター養成講座等を活用した活動者の育成や市民センターが遠くても通いたくなるような魅力的なサロンを新設する。

#### 5年後の達成目標

多くの地域高齢者が参加できるよう近場で通えるサロンを新設し、健康意識の向上、住民相互の自発的な見守りを定着させ広めていく。

#### 【重点実施項目における段階的な取り組みの年次計画】

実施 

	主な取り組み内容	2023	2024	2025	2026	2027
①	健康・衛生・防犯・防災など暮らしに役立つ情報を提供し、サロン（集いの場）の更なる充実を図る					
②	サロンサポーター養成講座等、人材育成を行う講座に積極的に参画する					
③	守秘義務を順守のもと、困りごとや身近で気になる住民の状況を気軽に安心して話せる場として定着させる					
④	地域の中で特技を持つ人がサロン等で活躍できる場をつくる					
⑤	地域住民は、どのようなサロン（集いの場）を求めているか声を集める					
⑥	高齢者の外出機会を増やすため、通える範囲で、趣味に応じた少人数サロン（集いの場）を新設する					



## 重点実施項目2 私たちの思いをつなぐ

### 選定した理由

活動者は地域に対し、思いや愛着をもって活動している。しかし一方で、活動が地域住民等に十分に認識されておらず、活動上で困難に感じている背景がある。まずは広く多くの地域住民に社協活動を知ってもらうため、社協活動の広報を通して、地域に対しての思いや愛着を理解してもらい、次世代につないでいく。

### 第一次計画の活動の方針




社協活動の詳細や魅力を発信するため、活動中の写真や活動者の声を生かした地区社協だよりの発刊に取り組む。また、サロン広報チラシに福祉協力員募集の記事を掲載するなど工夫し、活動者確保を広く呼び掛ける。

### 5年後の達成目標

地域住民や中原地区に関係する企業など幅広い人たちが、中原地区の魅力に気づき、活動に参加したいと思う広報の方法を構築する。

### 【重点実施項目における段階的な取り組みの年次計画】

実施 

	主な取り組み内容	2023	2024	2025	2026	2027
①	地区社協だよりの作成部隊を結成する					
②	地区社協だよりを発刊する					
③	鈴輪サロンや福祉協力員募集のチラシを作成、配布する					

## 重点実施項目 3 地域間交流を活用した次世代の人材発掘、育成

### 選定した理由

中原地区社協の役員や福祉協力員が高齢化しているため、今後を見据えて若い活動者の確保が必要である。三世代交流を目的とした行事を開催しているが、若い世代との交流が少なく、役員等の後継者の確保が難しい。

### 第一次計画の活動の方針






世代に関係なく中原地区の住民誰もが参加できる行事を企画、開催し、地域住民の顔なじみの関係をつくる。定期的に行事を開催し、世代間のつながりを強める。また、行事を通して、地域住民の社協活動への理解・促進を図り、福祉協力員・地区社協役員を担う人材を発掘する。

### 5年後の達成目標

若い世代の行事への参加者を増やす。社協活動への理解促進とつながりづくり、協力団体との連携促進を図る。

### 【重点実施項目における段階的な取り組みの年次計画】

実施 

	主な取り組み内容	2023	2024	2025	2026	2027
①	まち協やセンター行事等の広報に協力する					
②	世代に関係なく参加できる行事の検討・試行を行う					
③	全世代が参加できる行事の開催をする 食事をツールとした交流会、フリーマーケット等					
④	戸畑祇園大山笠を通じた若い世代の福祉協力員の発掘を行う（行事等で声掛けを行う）					
⑤	まち美化継続を通じた多世代の交流を図る（行事等で声掛けを行う）					

# 第4章 計画の推進

## 1 計画の承認と周知

- (1) 中原地区社会福祉協議会の策定委員会等を通じ、計画の承認と周知を行います。
- (2) 計画の実施項目を進めていくため、関係機関・団体への周知・協力依頼を行います。
- (3) 計画書概要版の配布、ホームページ等、その他、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

## 2 計画を推進するための体制

### (1) 小地域福祉活動第一次計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、中原地区小地域福祉活動第一次計画推進委員会（以下、「推進委員会」という。）を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

などについて、推進委員会で協議を進めていきます。

### (2) 計画の進行管理（推進委員会の開催）

推進委員会を適宜開催し、次の点について確認します。

- ① 事業推進の計画・実行
- ② 事業推進の進捗状況の評価・改善

### (3) 計画の評価

計画の中間年では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。



## 3 第二次計画の策定

第一次計画の推進状況を踏まえて、第二次計画の策定期間に、新たに第二次計画策定委員会を設置し、次期計画策定に向けての協議を進めていきます。

#### 4 小地域福祉活動第一次計画策定にあたり連携や協力をいただいた団体名簿

No.	企業・会社名
1	北九州市立中原小学校
2	社会福祉法人 北九州市戸畑民生事業協会 さかい川保育園
3	医療法人 池園医院
4	医療法人 池園医院 ちろりん村
5	社会福祉法人 北九州市戸畑民生事業協会 養護老人ホーム 長寿園
6	ローソン中原東三丁目店
7	戸畑区堺川郵便局
8	中原校区まちづくり協議会
9	西中原地区自治会
10	東中原地区自治会
11	中原地区民生委員児童委員協議会
12	中原婦人会
13	中原千歳会
14	中原市民センター
15	戸畑区役所 保健福祉課
16	北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所

## 5 小地域福祉活動第一次計画推進委員会(策定委員会)名簿

No.	氏名	所属団体・役職など
1	犬塚 博	中原地区社会福祉協議会 会長 中原地区小地域福祉活動計画策定委員会 委員長
2	渡邊 登	中原校区まちづくり協議会 会長 東中原地区自治会 会長 中原地区社会福祉協議会 理事
3	竹内 万司	西中原地区自治会 会長 中原地区社会福祉協議会 理事
4	幾島 登志雄	中原地区民生委員児童委員協議会 会長 中原地区社会福祉協議会 副会長
5	渡邊 恵美子	民生委員児童委員
6	吉田 紅仁子	民生委員児童委員
7	上原 眞壽枝	民生委員児童委員
8	久保田 美恵子	民生委員児童委員
9	竹島 芳子	民生委員児童委員
10	土井 俊彦	民生委員児童委員
11	平田 信幸	民生委員児童委員
12	山内 富士子	民生委員児童委員
13	野美 靖子	民生委員児童委員
14	寺沢 由紀	主任児童委員
15	池邊 元	中原地区社会福祉協議会 理事 中原千歳会(老人会) 会長
16	佐藤 妙子	中原婦人会 会長
17	田村 貞幸	中原地区社会福祉協議会 副会長
18	石井 威彦	中原地区社会福祉協議会 事務局長
19	竹内 明美	中原地区社会福祉協議会 会計
20	東 輝子	中原地区社会福祉協議会 会計監査
21	田口 稔	中原地区社会福祉協議会 理事
22	本多 惣一郎	中原地区社会福祉協議会 理事
23	野瀬 勝	中原地区社会福祉協議会 理事
24	永松 嘉男	中原地区社会福祉協議会 理事
25	大嶋 逸朗	中原地区社会福祉協議会 理事
26	植田 律夫	中原地区社会福祉協議会 理事
27	児玉 一記	中原地区社会福祉協議会 理事
28	松本 守	中原地区社会福祉協議会 理事
29	永田 由紀子	福祉協力員
30	濱田 君江	福祉協力員

31	吉田 久恵	福祉協力員
32	小屋 弘子	福祉協力員
33	本多 さよ子	福祉協力員
34	佐藤 哲男	福祉協力員
35	吉住 恵子	福祉協力員
36	山田 ユミ子	福祉協力員
37	西川 恵美子	福祉協力員
38	山地 利兵衛	福祉協力員
39	池邊 芙美子	福祉協力員
40	石井 智子	福祉協力員
41	貞包 由紀子	福祉協力員
42	宮石 英子	福祉協力員
43	植地 房子	福祉協力員
44	佐藤 智美	中原市民センター 館長（前任）
45	中島 うめ子	中原市民センター 館長
46	追木 正次	戸畑区役所 保健福祉課 課長（前任）
47	佐藤 浩一	戸畑区役所 保健福祉課 課長
48	山本 栄治	戸畑区役所 保健福祉課 いのちをつなぐネットワーク係長
49	江淵 寿美	戸畑区役所 保健福祉課 いのちをつなぐネットワーク 担当係長
50	佐々木 麻美	戸畑区役所 保健福祉課 地域包括 戸畑1 保健師
51	近藤 たばさ	戸畑区役所 保健福祉課 地域包括 戸畑1 社会福祉士（前任）
52	坂元 沙矢香	戸畑区役所 保健福祉課 地域包括 戸畑1 社会福祉士
53	川原 正明	北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所 事務所長（前任）
54	橋本 浩司	北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所 事務所長
55	縄手 富美	北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所 職員
56	坂田 美紀子	北九州市社会福祉協議会 戸畑区事務所 地域支援コーディネーター

## 【参考資料】 策定委員会及び役員会での協議事項

回	開催日	人数	主な協議事項
1	令和3年 11月9日	5	役員会① 策定委員会について（開催方法、日程）
2	令和3年 11月16日	32	小地域福祉活動計画とは （策定委員候補へ就任に向け趣旨説明）
3	令和4年 1月20日	8	役員会② ・策定委員会開催案作成 ・策定委員就任依頼文作成 ・関係団体候補選出
4	令和4年 1月15日～ 2月3日	11	各ブロックリーダーが策定委員候補へ依頼文配付
第1回策定委員会を2月8日に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みて、3月8日に延期			
5	令和4年 （昼）3月8日 （夜）3月22日	昼25 夜24	第1回小地域福祉活動第一次計画策定委員会 （昼・夜の部に分かれて2回開催） ・小地域福祉活動計画とは ・これまでの取り組みを体系的に整理
6	令和4年 （昼）5月9日 （夜）5月24日	昼25 夜18	第2回小地域福祉活動第一次計画策定委員会 （昼・夜の部に分かれて2回開催） ・第1回の振り返り ・長所について ・課題について
7	令和4年 6月27日	35	第3回小地域福祉活動第一次計画策定委員会 （昼・夜の部 合同で開催） ・第2回振り返り ・基本目標と実施項目について ・重点項目の選定について ・基本理念（スローガン）選定
8	令和4年 7月29日	31	第4回小地域福祉活動第一次計画策定委員会 ・第1次計画の計画書について ・第1次計画の概要版（PRチラシ）について ・今後のスケジュール等について ・広報について（計画書の活用及び概要版の配布） ・計画推進委員の就任について

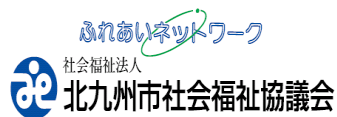


## 中原地区社会福祉協議会

(旧) 北九州市戸畑区中原東二丁目2番35号  
中原市民センター内 TEL・FAX (093) 881-1038

(新) 北九州市戸畑区中原西三丁目2番1号  
中原市民センター内

注;) 中原市民センターは令和4年12月に旧センターから新センターへ引っ越しをいたします。



## 戸畑区社会福祉協議会

〒804-8510 北九州市戸畑区千防1丁目1-1 戸畑区役所3階  
TEL 093-871-3259 FAX 093-881-8557  
ホームページ <http://www.kitaq-shakyo.or.jp/tobata/>

## 北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた8階  
(地域福祉部) TEL 093-882-4425 FAX 093-873-1351  
ホームページ <http://www.kitaq-shakyo.or.jp/>

★社会福祉協議会のイメージキャラクター★

『プチボザウルス』(Petit vosaurus)



Petit (プチ: ちっちゃな)  
Volunteer (ボランティア)  
Saurus (サウルス=恐竜)

「ちっちゃなボランティア活動を行う愛くるしい恐竜」をイメージ!